

三小だより 2月号



教育目標 「力たくましく 確かな学力を身につけた 心豊かな子どもの育成」

日々の生活を見つめて

校長 岡村崇弘

まもなく立春、暦の上では、春の足音が聞こえる頃となってきましたが、まだまだ厳しい寒さが続いており、全国的にインフルエンザが流行していることもあって、体調管理に気を遣う毎日です。皆様、健康には十分にご留意ください。また、先日は学校アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

さて、最近、「恵方巻き」のことがよく話題になっています。「立春前日の節分の夜に、その年の恵方を向いて、願い事を思い浮かべながら無言で巻きずしを丸かぶりすると、願い事が叶う」とされる大阪の風習が、寿司業界やコンビニなどの戦略で全国的に広まり、「恵方巻き」という形で定着してきたものですが、ここ数年、その「恵方巻き」の売れ残りが問題になっています。この「恵方巻き」に限らず、12月には、クリスマスケーキも大量廃棄されていることが問題になっていました。

そもそも、日本では膨大な量の食品がまだ食べられるのに捨てられている現実があります。2015年度統計によれば、例えば製造過程や輸送途中に傷んだもの、食べ残したもの、買いすぎて腐らせたものなど、生産から消費までの間に842万トン(食品全体の3分の1)が失われ、この中にはまだ食べられるのに捨てられている食品が646万トンもあるのだそうです。この量は、世界中で、国連などが途上国へ行っている食料援助全体の実に2倍にもなるとのこと。私たちは、身の回りに食料はじめいろいろなものがあることで、「豊かさ」を感じている面もあります。しかし、物が余り、大量廃棄している状況が「豊かさの証」であるとは思いません。日々の生活や社会状況について、もう少し気に掛けていく必要があると思います。

昨日、新入生保護者向けに「入学説明会」を実施しました。その説明会に備え、改めて小学生が学校生活を楽しく過ごすために大切なことは何か考えてみましたが、私の答はやはり「早寝早起き朝ご飯」等、基本的な生活習慣をきちんと確立することでした。睡眠時間が不十分で、朝ご飯を摂っていない子どもの学力や学習意欲が芳しくないということがいろいろな調査で明らかになっています。これらのことも含め、「挨拶」「役割分担の遂行」「時計を見て行動できる」などの習慣が確立していないと、生活リズムが作れず計画的に物事を進めることが苦手になったり、ルールやマナーへの意識が低くなり道徳性や社会性が育ちにくくなるということも考えられます。

また、子どもの基本的な生活習慣の確立に欠かせないのが、保護者や周りの大人の声掛けや見守りだと思います。子どもの「やる気」を高めるためには、自己肯定感や自尊感情の向上が不可欠です。ご家庭におかれましても、「できたこと」「がんばったこと」「手伝ったこと」などがあつた場合には、「ほめる」「感謝する」「労う」など積極的に言葉掛けをお願いいたします。

